



編集:情報サービス委員会 広報誌部会

TEL 0748(22)3030 FAX 0748(23)3383

発行日 2012/4/20 VOL 6

滋賀県地域がん診療連携支援病院に指定されました！



先に滋賀県へ申請しておりました「滋賀県地域がん診療連携支援病院」について、平成24年度より指定されることになりました。3月9日（金）当院応接室において滋賀県知事（代理：瀬戸東近江保健所長）より井上院長に指定書が交付されました。

これは、平成23年度より診療機能が大幅に充実したことにより、滋賀県におけるがん医療水準の向上を図るとともに、がん診療連携拠点病院に準じた安心かつ質の高い適切な医療が提供できる体制が整備されたとして、県下6施設目として平成24年3月1日付で指定されたものです。

※滋賀県がん診療支援病院とは

厚生労働大臣が指定する都道府県がん診療連携拠点病院（県立成人病センター）及び地域がん診療連携拠点病院（大津日赤、市立長浜、公立甲賀、彦根市立、滋賀医大）と協力、地域のがん診療を担う中心的な医療機関として滋賀県知事が指定するもの。

前者は滋賀県全域、二次医療圏（広域）を対象とするのに対し、後者は地域（当院では東近江地区周辺）を対象とする。

2月より赴任しました！

消化器科

消化器科医師

(さかい しげき)

酒井 滋企



京都出身で、滋賀に移ってから10年が経ちます。滋賀医大で研修し、消化器内科医として働いてから1年が経とうとしています。今年の2月から国立病院機構滋賀病院にお世話になっており、3月からは救急外来や消化器の外来も開始する予定です。

学生や研修医の時期に永源寺診療所で研修をさせて頂いた経験もあり東近江は親しみのある土地なのでこの地で働くことはとても嬉しく思います。

現在は上部、下部内視鏡検査等を行なながら少しでも早く業務に慣れるよう頑張っているところです。まだまだ未熟なことも多く迷惑をおかけすると思いますがよろしくお願ひいたします。

4月より赴任しました！

産婦人科

産婦人科医長

(いのうえ たかし)

井上 貴至



平成5年に滋賀医科大学を卒業、産科学婦人科学講座へ入局しはや20年目に突入しました。その間大学病院をはじめいろいろな病院で勤務し様々な患者さんの診療に当たらせていただき、多くの事を学ばせていただきました。今回国立滋賀病院で勤務させていただくに当たり今までの経験を生かし東近江医療圏への貢献に尽力したいと考えていますのでよろしくお願ひいたします。取り分け本年度より分娩開始という節目に着任という機会に恵まれありがとうございます。周産期医療を専門としてきましたので思う存分本領発揮したいと考えています。婦人科診療におきましても幅広く診療しておりますので気楽にご紹介ください。

産婦人科

産婦人科医師

(きん ともこ)

金 共子



毎週火・木診療

このたび4月から、滋賀病院産婦人科に(火)(木)の週2回非常勤でお世話になっております。3月までは大津赤十字病院に勤務していました。

当院では永らく産婦人科がなかったのですが、昨年度から新しい形で再開され、5月からは分娩も始まります。このようなフレッシュなスタートの時期に勤務することができ、とても幸せに感じています。非常勤ではありますが、常勤の二人の先生方を一所懸命サポートし、少しでも住民の皆様のお力になれますように努めたいと思います。

呼吸器科**呼吸器科医師**

(わだ ひろし)

和田 広**呼吸器外科****呼吸器外科医師**

(うえだ けいこ)

上田 桂子

このたび、呼吸器内科医として赴任いたしました和田広と申します。呼吸器内科は、閉塞性肺疾患（COPD、喘息）、アレルギー疾患、間質性肺炎、感染症、呼吸不全、肺腫瘍など、非常に多岐にわたる疾患をカバーしています。ただ、呼吸器内科医が一人ということもあり、他科の先生方と協力しながら診療を行っていく必要があり、COPD、気管支喘息などの呼吸器内科ならではの疾患に特に力を入れていきたいと考えております。微力ではありますが、呼吸器内科専門医の少ない東近江地域で少しでも貢献できるように努力していきたいと思います。

みなさま初めまして。2012年4月から国立病院機構滋賀病院に呼吸器外科で赴任いたしました上田桂子です。まだまだ経験も浅く右も左もわかられないことばかりですが、1日も早く業務に慣れ東近江のみなさまの健康に貢献できればと思います。いろいろな方々と連携をとりながらよりよい医療を提供できるように精進していく所存です。

市民公開講座**テーマ～地域で支える健康～**

当院主催、今年度2回目の市民公開講座を3月20日（火）、八日市駅前のショッピングプラザアピア（アピアホール）で開催いたしました。

当日は来見副院長による司会・進行の下“地域で支える健康”をテーマに、整形外科の菊地先生、呼吸器外科の藤田先生、外科の佐藤先生が講演をされました。

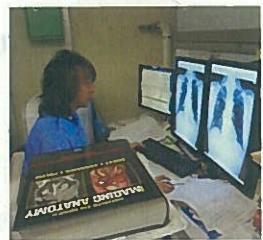
当日は春分の日の祝日ということもあり買い物途中の方を含め60名近くの方が参加、講演終了後には予定していなかった市民の方と演者による交流の場ができるなど、盛況なものとなりました。

また、参加された方にアンケートへご協力いただきましたところ、“今後も継続してこのような公開講座を開催してほしい” “次回もぜひ参加したい” という声が多数寄せられたほか、“日頃なかなか診察の場では聞きにくいことも教えてもらえた”と開催に感謝される意見もあり、あらためて市民公開講座を開催する意義を感じさせられました。



放射線科の紹介

C T、MR、R Iを中心に行なう。院内の画像診断を担当とともに、地域医療機関からの検査依頼を随時受け、結果につきましても即日対応し、地域医療連携室と協力して地域医療への貢献を目指しています。また、血管造影（頭部、心臓を除く）を中心とした画像診断を利用した低侵襲治療（I V R）を行っています。また、リニアック装置による放射線治療では、当病院各科からの依頼の他に近隣病院からの紹介も多く、主に肺癌、乳癌に対して年間100例以上の実績をあげています。



放射線科医長

放射線科スタッフ
技師長 仲有史
照射主任 松田一秀
技師 林陽一 東野谷光弘 松本一繁 太田竜介

居出健司

一般撮影・乳房撮影（マンモグラフィー）

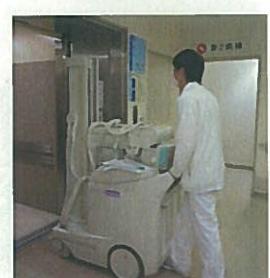
一般撮影とは、X線を用いて胸部、腹部、骨などを撮影する「レントゲン写真」と呼ばれているものです。透過したX線量の違いを画像化し、骨折や異常陰影を写し出すことができます。撮影する部位は、頭から足先まで全身を撮影することができます。また、撮影する際により詳しく検査するため同じ部位を多方向から数回撮影することもあります。



乳房撮影（マンモグラフィー）とは、乳房にできる様々な病変をX線を用いて写真上に写し出す検査です。乳房は骨や肺と違って普通のX線では写りません。そのため専用のX線装置で撮影します。撮影時には乳房の向きや位置を正しくするため乳房全体を圧迫します。また、検診による乳房撮影も行っています。

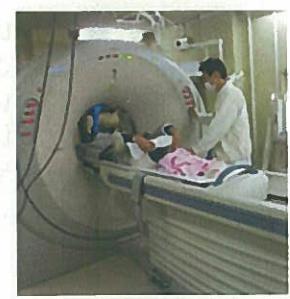
X線TV検査

X線TV検査とは、X線を使って体の中の臓器の様子をテレビ画面で観察しレントゲン写真を撮りながら検査を行います。この検査には、バリウムを飲んで行う胃透視検査や、注腸検査などがあります。その他、脱臼や骨折後の整復や、内視鏡を用いて胆道系や脾管を消化管用造影剤で造影する検査も行っています。また、他病院、診療所、クリニックからの紹介による検査や治療も積極的に実施しています。



CT検査

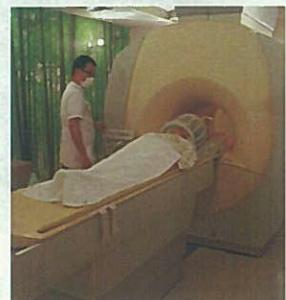
CT検査とは、人体にX線を360°の全方向から照射し、透過してきたX線を検出器で測定します。その結果をコンピューターにより計算することで、体を輪切りにした画像を撮影する検査です。



特徴としては、検査時間が短く、体内の様子を詳細に知ることができます。また、造影剤というお薬を用いて検査することで、体内の血管や臓器の様子をさらに詳細に検査することも可能です。

■ MR検査

MR検査とは、一般的にX線で評価できない軟骨や筋肉、靭帯などの軟部組織や、骨軟部腫瘍などの評価に有用であり、超急性期脳梗塞では拡散強調画像が有用であると言われています。当院で行われるMR I検査は頭部、腹部、四肢関節、脊柱、血管と様々な領域での検査が可能です。検査中は、体の動きにより画質の低下を招く為できる限り動かないようお願いしています。また、X線を使わないので被ばくの心配もありません。



■ RI検査

RI検査とは、放射性同位元素（RI）を静脈注射することにより目的とする臓器にRIが集まり、そこから放出される放射線をシンチカメラでとらえて画像化する検査です。当院では、心・骨シンチ、肺血流シンチ、脳血流シンチの検査を行っています。検査はほとんどベッドに寝ているだけで済みます。また、検査に使用するRIは短時間で自然消失し体内に排泄されてしまうため心配ありません。

■ 血管撮影検査

血管撮影検査とは、血管にカテーテルと呼ばれる細い管を挿入し、カテーテルから造影剤を注入して目的とする体幹部（胸部・腹部）の血管を描出し、さらに細い血管までカテーテルを進めることにより、詳細な血管像を得ることが可能となります。また、腫瘍を栄養している血管の検索や外傷等による出血の原因となっている血管を特定し、その血管に対して金属コイル等の塞栓物質を詰め止血する治療や、肝細胞癌の動脈塞栓術、肝転移の抗がん剤・動注療法等の低侵襲的な治療も積極的に行っています。

■ 放射線治療

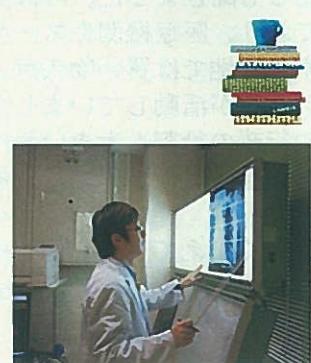
放射線治療とは、人体の外部から放射線を照射して病気（主に肺がん・乳がん）の治療を行います。放射線は目に見えず体にあたっても何も感じませんが、体の表面や奥にある病気を治すことができます。

放射線治療の利点は、臓器温存や機能保持でありQOL（quality of life：生活の質）を高く保つことが可能です。悪性腫瘍による疼痛などにも放射線治療を行い、緩和療法（症状の緩和や苦痛の軽減を目的とする治療）も積極的に行っています。また、放射線治療単独だけでなく、化学療法との併用や手術と化学療法、放射線治療を組み合わせた総合的治療の一翼として各診療科と密接な連携を持って治療にあたっています。



■ 最後に

最後に、放射線科では地域の皆様に安全かつ安心して検査、治療を受けていただけますように日々努力しています。また、検査・治療に対するちょっとした疑問や不安な点などありましたら遠慮せず気軽に担当スタッフに声をおかけ下さい。



東北大震災 から1年



釜石市立唐丹小学校体育館



岩手県立大槌病院



公立志津川病院



気仙沼市街



岩手県立陸前高田病院



3月7日から15日まで特別休暇を頂いて、日本社会福祉士会から派遣された岩手県下閉伊郡山田町（地域包括支援センター）での活動に参加してきました。

あの大震災から1年が経過した被災地では、瓦礫こそ取り除かれつつありますが、住宅移転、がれき処理、産業の再生、被災者のケアなど課題は山積みです。その一方で、辛い中でも何とか生きていこうとする東北の人々の姿を見ました。

訪問した中では「死にたい」「眠れない」「食事が食べられない」など心に深い傷を負った方たちがたくさんいました。この1年間は「生きる」という大目的に向かって支援が行われてきましたが、今後は「生きづらさ」や「生活しづらさ」など一人ひとりに焦点を当てた支援が求められていると感じました。

住民の方の健康状態を聞き取る中では、かかりつけの医療機関が被災し、受診が困難になったという話しも聞きました。町は少しずつ復興しつつありますが、仮設住宅は高台や街の外れなどにも建てられており、医療機関やスーパーなど日常生活に直結する施設へのアクセスを改善するための支援が必要です。現地では買い物代行、避難所のサロン運営、無料共同浴場開設、行方不明者捜索など多くのボランティアが活動していました。単発での支援や、一回の募金だけでは限界があると感じました。また、国や行政の役割も大きいわけですが、そこだけですべてが解決するわけではありません。国民一人一人が、自分に何ができるかを考え、細く長く支援することがとても大切だと思います。

温かく迎えてくださった山田町民のみなさんら日々奮闘しておられる山田町役場職員のみなさん、日常業務で忙しい中、9日間もの間貴重な経験をさせてくれた自分の職場の仲間にはお礼を言いたいと思います。

医療社会事業専門員 山脇克哉